

# 産業教育常任委員会先進地視察研修報告書

- 期 日 平成27年7月23日（木）、24日（金）
- 視 察 先 宮城県仙台市、山形県米沢市
- 参 加 者 委員8名、随員1名 合計9名
- 視察概要

## 【仙台市】

- 人 口 1,050,966人（H26.10.1現在）
- 面 積 788,09km<sup>2</sup>
- 調査事項 「起業支援センター“アシ☆スタ”について」

## 1. 概要

- ・愛称“アシ☆スタ”の由来 「スタートアップをアシスト」  
「明日のスターを生み出す」  
「明日、スタートする」
- ・設置 平成26年1月30日
- ・場所 （公財）仙台市産業振興事業団内
- ・支援の対象 これから起業したい方、起業から5年以内の方
- ・支援体制 中小企業診断士、金融機関OB等の窓口相談員4名のうち2名常駐
- ・支援メニュー
  - ①相談対応（無料）・・・※週3回の女性起業相談Dayが大当たり
  - ②起業家セミナーの開催・・・※女性の6割が育児中のためセミナーは託児付
  - ③ビジネスグランプリ・・・新規性の高いビジネスプランを募集・表彰
  - ④交流サロン・・・起業家同士の情報交換 ※ビジネスの契約に繋がることも
  - ⑤HPを通じて各支援機関の情報提供
  - ⑥FBを通じた開業支援事例の紹介、PR支援
- ※創業者向けの補助金はない⇒補助するより多くの支援

## 2. 相談実績

- ・平成26年度の起業相談件数1,036件（前年度377件、275%増）
- ・開設後は女性の相談が男性を上回り、伸びが顕著（前年度比407%）
- ・年代は男女ともに30代が最多

## 3. 開業実績

- ・26年度の開業数59件

- ・代表者は男女ほぼ同数だが、女性の伸びが大きく、アロマ、ネイルなどのサービス業が伸長。
- ・女性起業家同士のコラボレーション事例もある

☆☆ 各委員の所感等 ☆☆

- ・栃木市において、仙台市産業振興事業団の役割を担う部署は商工観光課かと思うが、専門的な起業相談は厳しい。商工会議所や商工会へ依存しているのが現状であるが、決して満足できる状況ではない。そこで、もう少し規模の小さい起業支援センター的な部署もしくは、外部団体を行政が設置する必要がある。産業振興部、総合政策部、商工会議所、商工会から職員を拠出して専門部署を設置し、総合的な起業支援体制を創ることが求められている。
- ・女性市長から、女性が起業しやすい支援環境を整えるようにとの指示もあり、女性起業家数を押し上げている。政策が現実を変える事例を見た気がする。本市でも的確な人材配置と支援メニューを工夫すれば、現在の創業支援制度よりも活性化が図れるのではないかと。バックボーンは市当局の強力なリーダーシップである。
- ・リーマンショック前のベンチャー企業を多く輩出した時代と異なり、個人が起業するにはきめ細やかな支援体制が必要であり、本市においても、このような支援体制の強化が必要と考える。
- ・起業相談は前年比で275%であり、特に女性は407%と伸びが顕著である。また、男女とも30歳代の相談が多い。起業家を目指す者同士が情報交換できるサロンなど若者に合った取り組みであり、本市にも立ち上げるべきと感じた。
- ・初心の起業希望者は検討事項そのものが不明であろうが、そこを丁寧にサポートしている雰囲気が見えた。トップの強い決意が職員をその気にさせている。
- ・活力ある街を構築するためには、人づくりが大切であり、未来を切り拓いていくために、起業家は非常に重要な存在であると改めて感じた。特に被災地にとっては、震災から復興の中で最も重要な事だと感じた。本市においても、更に高い目標をもって取り組んでいただくよう、提案ができたかと考えている。
- ・全事業費は3300万円で、本市で同様の起業支援センターを作る余裕はない。しかし、前向きに起業を目指す老若男女に対して手を差し伸べなければならず、支援策の強化は必要であると痛感した。

## 【米沢市】

○人 口 85,217人 (H26.10.1現在)

○面 積 548.74km<sup>2</sup>

○調査事項 「上杉鷹山の教えと道徳教育について」

### 1. 米沢市の学校教育目標 「生きる力を育む学校教育」

自分の見方・感じ方・考え方を相手に伝え、人々との関わりの中でよりよく生きようとする社会的実践力を備えることが必要。これを支えるものは、自ら考え、判断・行動する力、つまり「生きる力」である。

### 2. 米沢市学校教育の基本理念

上杉鷹山公の教えにある①「目的意識の確立」②「倫理観の醸成」③「実学性の重視」を継承して米沢の子供を育てており、この3つの基本理念を米沢の教育では大事にしている。

①目的意識の確立とは、一人ひとりが何のために学び、どのような生き方をしているのか、信念や志を持つこと。

②倫理観の醸成とは、人として身につけなければならない公共心や規範意識などの倫理観を小さい時から時間をかけて育てていくこと。

③実学性の重視とは、ただ流行を追うことではなく、社会の変化した時代の要請を感性豊かにとらえ、学んだことを生かして活用していく柔軟性を持ち、自他を認め合いながら、生きる力を備えること。

### 3. 目指す子ども像 「がってしない子ども」 (※がってしない=へこたれない)

### 4. 道徳郷土資料集「ふるさと米沢の心」及び映像教材作成

#### (1) 目的

郷土の伝記、逸話などの題材を取り上げて、その生き方、考え方などを学ばせることによって、児童生徒の道徳性を養い、併せて郷土に対する深い理解と愛着を培う

#### (2) 道徳郷土資料集「ふるさと米沢の心」の発刊

昭和56年より道徳の郷土資料を作成。平成6年に道徳郷土資料集「ふるさと米沢の心」を発刊して小学校3年生から中学校3年生までの全児童生徒に配付。その後、平成19年度から3年間かけて改訂を行い新しい資料を加えた。

#### (3) 道徳郷土資料・映像教材の制作

古い資料の取り扱いが難しく、時代背景や文章の難解なものについて、映

像による教材の開発要望が高まってきた。そこで、米沢市教育研究所道徳副読本編集委員会において視聴覚教材化を図ることとし、平成8年から3年間で3つのビデオ資料を制作し、各小中学校に配付した。

「荒れ地を美田に」「吾妻の白ざるを求めて」「天然痘をなくせ」

さらに、道徳郷土資料集「ふるさと米沢の心」の関連資料をDVDにまとめ、平成26年度に各小中学校に配付した。

「鷹山公と平洲先生」「水に強い町づくり～直江兼続の治水事業～」

「皆川睦雄ものがたり」「米沢の鯉」など9作品

#### ☆☆ 各委員の所感等 ☆☆

- ・ 栃木市の教育において、ことあるごとに登場するのが、旧栃木市出身の山本有三氏であり、その代表作である「路傍の石」の一節である。しかし、都賀では日立製作所創始者の小平浪平氏、大平では「ビール麦の父」と呼ばれる田村律之助氏など、他にも英傑がいるので、各地域の英傑を須らく登場させて郷土愛の育成、醸成に活用させるべきではないか。
- ・ 本市の教育理念も米沢市と同様に、郷土の人に関与する物から作られた大変立派なものだと思う。ただ、吾一少年は小説の中に出てくるフィクションであるが、鷹山公の生き方は史実としてあり、その教えのもとに残された成果が現在の自分たちに繋がっていると市民が感じられことが羨ましい。
- ・ 本市は合併後日が浅く、山本有三と同じ市民なのだと感じるには時間が必要である。米沢市が道徳郷土資料集「ふるさと米沢の心」や映像教材を作成しているように、本市も郷土に貢献された偉大な先達の伝記・逸話などを題材に取り上げた資料を作り、教材として使用することで、児童生徒の道徳性を養い、併せて郷土に対する理解と愛着を培うことが良いのではないか。
- ・ 栃木市の教育の一環として、山本有三の教えがあるが、更に取り組みを強化し、「たった一度しかない人生を・・・」の教えが「なせば成る・・・」と同等になるように、内外に強く発信すべきである。子どもたちの精神教育の更なる向上と観光振興に大いに寄与されるものとする。
- ・ 道徳教育の3本柱①「目的意識の確立」②「倫理観の醸成」③「実学性の重視」は鷹山公の教えそのものだろう。しっかりと地に足のついた教育がされている。米沢市教育委員会が独自の資料として小中学校の道徳の副読本を作成しているなど、本市のお手本になると思う。

- ・郷土の先人たちの生き方、考えを通して子どもたちの心を育む教育に力を注いでおり、大変すばらしいと感じた。本市の道德教育に活かしていけるように取り組みたい。